



## 概要

持続可能な新たな中間支援の仕組みとして、ネットワーク型の中間支援事業のモデル化と淡路市でのネットワーク型中間支援の実践支援を続けている。新たに得られた成果と今後の展望について報告をおこなう。

キーワード: ネットワーク、中間支援、団体連携、AI 活用、合理化

## 【目的・背景】

### 目的:

事業を行うには、「人・もの・金・情報」など、様々な資源を必要とするが、一つの団体が全てを負担するのではなく、複数の団体がそれぞれ専門分野を担うことで、少ない資源を有効活用することで行える新たな中間支援の形を生み出す。

### 背景:

NPO 元年から 30 年が過ぎた現時点でも中間支援を主事業としている団体の多くは、自主財源だけで事業を継続することが難しく、行政などの公的な機関からの支援を必要としているところが多い。しかし、中間支援とは別の専門分野で自立出来ている団体は多いので、専門性の高い複数の団体をネットワークし持続可能な中間支援が実現できないかの検討と実践を進めている。



この画像も AI によって  
もらいました。

プロンプトは、日本の 40 代の女性 3 人が、チャット GPT を使って、旅行の計画を立てています。  
AI を使って楽しく作業をしていることが伝わってくるジブリ風のイメージのイラスト又は画像を作成みてください です。

## 事業内容

- 相談業務: 淡路市での隔月（偶数月）の相談会に出席、その他随時相談に対応
- ネットワークの構築・情報提供: 淡路市中間支援ネットワークの SNS とひょうご子育てコミュニティのメーリングリスト、当団体ホームページなどを活用
- 人材育成（講座の開設等）研修: AI 活用講座（全 3 回）の実施と相談業務の際に直接指導
- 書類作成指導: 上記の講座の中で AI を活用した書類作成についてのコツや注意点を指導
- 調査研究: 「世代をつなぐコミュニケーションプロジェクト」を実施

## 今後の展開・課題

### 今後の展開:

- AI プラットフォームの取扱選択
- 成功モデルの確立
- ネットワーク型中間支援組織の数を増やす
- AI を使いこなせる人材の育成

## 【成果・効果】

### 成果:

- AI 活用講座（全 3 回）に延べ 40 人以上（行政、大学、市民団体、一般）と幅広い分野の方に参加頂いた
- 淡路市中間支援ネットワークの輪が広がり NPO 団体だけでなく 淡路市社会福祉協議会との連携を促進させることができた



### 効果:

今年度のひょうごボランタリープラザ助成事業の事業報告会のテーマが「人材確保と資金調達」だったが、AI の活用と専門分野を持ち団体のネットワークにより、専門性の高い人材を低賃金で確保することが可能となり、そのためのプラットフォームやアプリなどもノーコードで作成が可能となった。

### 課題:

- 考えを共にする専門分野との更なる連携
- 利用者からの信頼性の確保と認知の向上
- 行政など公共団体との連携強化